



倉敷観光の中心、倉敷美観地区。江戸時代に商人の町として栄え、倉敷川沿いにはなまじ壁の白壁土蔵や格子窓の町家が立ち並び、国の重要伝統的建造物群保存地区で平成22年度都市景観大賞の美しいまち賞を受賞。2012年アジア都市景観賞の大賞を受賞



倉敷アイビースクエア内の倉紡記念館には繊維の発展の歴史を展示。国登録有形文化財、近代化産業遺産でもある



倉敷アイビースクエア。1889年建設の紡績工場を改修、ホテルやレストランも備えた美観地区のシンボル



和の町並みに調和する洋の建物。和洋の建築が同時に見られるのも美観地区の魅力。正面は1930年創建の大原美術館

倉敷館。1917年に倉敷町役場として建設された国登録有形文化財。観光案内所として活用されている



文・撮影 大野尚子（旅行ジャーナリスト）『月刊アジア倶楽部』元編集長。NHK「関西ラジオワイド」の（アジア旅情報）を17年間担当。レギュラー出演中。日本旅のベンクラフ理事、日本ベトナム経済交流センター顧問、朝日カルチャーセンター講師。2010年よりソウル観光広報名誉記者、台湾埔里親善大使、韓国安東観光サポーターズ、「ベトナム家庭料理入門」（農文協）、「菜食のすすめ」（PHP）など共著書多数。イベント・コーディネートとしても多忙。



国産ジーンズ発祥の地でありデニムの聖地と言われる倉敷市児島のジーンズショップが点在



## 和と洋が織り成す繊維の街

400年前までは海とそこに浮かぶ島々だったという倉敷は「日本一の繊維の街」。

江戸中期頃に干拓された土地は塩分が強い。ため米作に向かず、塩に強い綿やイグサの栽培が行なわれた。この綿花の栽培がやがて世界に誇る繊維の街へと繋がる。

年間約350万人の観光客を迎える倉敷美観地区は、綿花で財を成した伝統的な商人屋敷と、近代紡績業発展後の洋風建築が調和を見せる。町並みが繊維産業推移の「証人」でもある。

今年2017年4月には、この繊維産業発展ストーリーが文化庁の日本遺産に認定された。

「街の成り立ちを知ること、その価値を認識してもらい、時間をかけて歩いていただきたい」と、倉敷市日本遺産推進室の藤原憲芳さん。

文化財を守りながらその価値を活用することで、地域を活性化し観光に繋げるのが文化庁の狙い。現在認定の54のストーリーは、文化庁の折り紙つきの魅力ある文化財ばかり。日本の旅がより楽しくなる。